

**平成25年度人材育成支援無償「人材育成奨学計画」
E/N署名時の大使のスピーチ**

2013年7月26日、タシケント市

イクラモフ副首相閣下

本日、人材育成支援無償「人材育成奨学計画」(総額2.04億円、約204万米ドル)の交換文書に署名する運びとなったことを、お喜び申し上げます。

ウズベキスタンにおける「人材育成奨学計画」は、「社会経済開発の政策立案に携わる優秀な若手行政官等の育成」及び「二国間関係の強化」を目的として、1999年に開始されました。我が国は本件プロジェクトにおいて、合計236名の留学生を日本の大学院に送り出してきました。

本年8月下旬には第14期生が日本に出発する予定です。現在、留学に向けた活発な事前研修が行われていると伺っています。

また、まもなく第15期生の募集も始まる見通しです。ウズベキスタン政府におかれましては、本プロジェクトが最大限有意義なものとなるよう、特に対象者の推薦や帰国後のフォローアップにつき、引き続きご協力をお願いします。

5月の私の信任状奉呈の際、カリモフ大統領が自ら本件プロジェクトに言及され、次の4点を述べられました。

- (1)これまで200人以上が日本で修士号を取得している。日本政府に自分の謝意を伝えてほしい。
- (2)日本の修士号取得者は、ウズベキスタンで高いポストに就いている。これは日本の知見がウズベキスタンで必要とされている証左である。
- (3)留学生が日本で得た財産は、時間とともに結果として表れるものであり、お金で計れるものではない。彼らが自らにかけられた期待に応えていくことが重要である。
- (4)今後も、より多くの留学生を日本に送りたい。

最後になりますが、本件プロジェクトが第1にウズベキスタンの社会・経済の発展に寄与すること、第2に、日・ウズベキスタンの友好関係を一層深め、両国国民の間のかけ橋となることを祈念して、私の挨拶といたします。

加藤文彦在ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使